

■業務提案書を特定するための評価基準

評価項目			評価の着眼点		評価 ウェイト
			判断基準		
予定技術者の評価	予定技術者の経験及び能力	管理技術者	資格要件	技術者資格等、その専門分野の内容 下記の順位で評価する。 ① 一級建築士又は建築設備士の資格を有し、建築法による登録を行っている。 ② その他、上記に準ずる建築、建築設備又は環境整備に関する資格を有し、登録を行っている又は登録済書の交付を受けている。 なお、上記以外の場合は特定しない。	① 8 ② 4
		実績要件	過去10ヶ年度と同種又は類似業務等の実績の内容 下記の順位で評価する。 ① 平成27年度以降に同種業務の実績がある。 ② 平成27年度以降に類似業務の実績がある。 なお、業務実績がない場合は特定しない。	① 9 ② 4	
		資格要件	技術者資格等、その専門分野の内容 下記の順位で評価する。 ① 一級建築士又は建築設備士の資格を有し、建築法による登録を行っている。 ② その他、上記に準ずる建築、建築設備又は環境整備に関する資格を有し、登録を行っている又は登録済書の交付を受けている。	① 3 ② 1	
		実績要件	過去10ヶ年度と同種又は類似業務等の実績の内容 下記の順位で評価する。 ① 平成27年度以降に同種業務の実績がある。 ② 平成27年度以降に類似業務の実績がある。	① 5 ② 2	
評価点 小計					25
実施方針の評価	実施方針表・実施フロー・その他	業務理解度	・目的、条件、内容の理解度が高い場合に優位に評価する。 10：大変優れている 8：優れている 6：どちらともいえない 4：やや劣っている 2：劣っている		10
		実施手順	・業務実施手順を示す実施フローの妥当性が高い場合に優位に評価する。 ・省エネシミュレーション手法が具体的に妥当性が高い場合に優位に評価する。 ・業務量の把握状況を示す工程計画の妥当性が高い場合に優位に評価する。 10：大変優れている 8：優れている 6：どちらともいえない 4：やや劣っている 2：劣っている		10
		その他	・業務に関する知識、有益な提案、重要事項の指摘がある場合に優位に評価する。 ・業務の円滑な実施に関する提案があった場合には評価する。 5：大変優れている 4：優れている 3：どちらともいえない 2：やや劣っている 1：劣っている		5
評価点 小計					25
特定テーマの評価	特定テーマに対する技術提案	全体	特定テーマ間の整合性	・2つの特定テーマの技術提案内容に矛盾がある等、整合性が著しく悪い場合は特定しない。	数値化しない
		特定テーマ1	的確性	・必要なキーワード（着眼点、問題点、解決方法等）が網羅されている場合に優位に評価する。 ・業務目的との整合が高い場合に優位に評価する。 10：大変優れている 8：優れている 6：どちらともいえない 4：やや劣っている 2：劣っている	10
			実現性	・提案内容に説得力がある場合に優位に評価する。 ・提案内容を裏付ける類似実績などが明示されている場合に優位に評価する。 ・多様な視点から課題に対応し、実現化へ導いていくことが可能と考えられる場合に優位に評価する。 ・設計実務者への周知・啓発に対する具体的な提案に優位に評価する。 20：大変優れている 16：優れている 12：どちらともいえない 8：やや劣っている 4：劣っている	20
		特定テーマ2	的確性	・必要なキーワード（着眼点、問題点、解決方法等）が網羅されている場合に優位に評価する。 ・業務目的との整合が高い場合に優位に評価する。 10：大変優れている 8：優れている 6：どちらともいえない 4：やや劣っている 2：劣っている	10
			実現性	・提案内容に説得力がある場合に優位に評価する。 ・提案内容を裏付ける類似実績などが明示されている場合に優位に評価する。 ・多様な視点から課題に対応し、実現化へ導いていくことが可能と考えられる場合に優位に評価する。 10：大変優れている 8：優れている 6：どちらともいえない 4：やや劣っている 2：劣っている	10
評価点 小計					50
参考見積	業務コストの妥当性	・提示した業務規模と大きくかけ離れているか、または提案に対して見積が不適切な場合には特定しない。			数値化しない
評価点 総計					100